	工業高等	等專門学校	開講年度	令和04年度 (2	2022年度)	授業科目	電気情報工学実験Ⅱ		
科目基础		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	1,3213 1,32	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	3 2 (3)		
科目番号	ALIDTK	0033			科目区分	専門 / 必			
授業形態			実験			z数 履修単位			
開設学科		創造システ	創造システム工学科(情報・通信ネットワーク コース)			5	2		
開設期		前期				4			
教科書/教	 ෭材	1.2.7.1.	テーマ毎に担当教員が用意する実験指針プリン			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
担当教員	,,,,			・アンドラデ・エ					
<u></u> 到達目標	 票	124714 717 12	7,00						
3. 実験 4. 実験 5. 発表(	結果に関す。 内容, 考察[ において, ]	る考察が充分に	推敲され, 読み易 ロジェクタ等を用	Nて説明できる。 経理や考察ができる 聞くまとめられたレ 別いて分かり易く発	ポートを期日までは	こ提出できる。			
ルーブリ	ノック		理想的な到達レ	ベルの日安	標準的な到達レベ	ここの日安	未到達レベルの目安		
評価項目:	1			<u> ソルの日女</u> 習準備し, 高度な	実験内容について		未到達レバルの自女      実験内容について説明できない。		
評価項目.	L		実験内容について		学習してきた知識				
評価項目2	2		タの整理や考察が		夕の整理ができる	) <sub>0</sub>	タの整理ができない。		
評価項目:	3		美級相乗に関する   敲され、読み易く   ポートを期日ま	くまとめられたレ	読み易くまとめら 期日までに提出で		レポートを期日までに提出できない		
評価項目4	4		実験内容,考察内容についてプロ 実験		実験内容についてを用いて発表でき		実験内容についてプロジェクタ等を用いて発表できない。		
評価項目:	5		発表において,質問にも適切に応 えられる。		発表において,質	間にも応えられ	発表において、質問に応えられない		
学科の狂	到達目標耳	項目との関係	<del>(</del>						
			 ニケーション能力	D-1					
教育方法									
	<u> </u>	第5学年の		学年までの学生宝	 験と異かり 実験排	3当教員の専門を			
概要		について学	ズーアカまで学習		30,000,000,000				
							野に密接に関連した応用実験テーマとを学ぶ。		
授業の進	め方・方法	ガイダンス ンテーショ 会を行いま	は講義形式で行い ン技術向上のため す。	v, 実験は各テーマ 発表会を行います	について班ごとに2 。プレゼンテーショ	週連続で行いま 3ンは1週目にス	す。なお,レポート提出およびプレゼ ライド作成(準備), 2 週目に発表		
	め方・方法	ガイダンス カテーバ 会を相点は60 をポート に は を が り り に に に に に に に に に に に に に に に に に	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 )点である。各テー )%,考察40%, 提出者は単位取内容 ける前)実験内容	、実験は各テーマ 発表会を行います -マのレポート及び 実験に対する姿勢( む)が困難となるので	について班ごとに2 。プレゼンテーショ ・ 実験に対する姿勢 発表したテーマは 注意するなかった点を 分からなかった点を	週連続で行いま ョンは 1 週目にフ で評価する(レ7 表表点)10%)。	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表 ポートの体裁(図・表・式の出来映え		
注意点		ガイダンス コテーデン 会を信は60 を含かした に は 講義を で で は は は は は は は は は は は は は は は は は	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 )点である。各テー )%,考察40%, 提出者は単位取内容 ける前)実験内容	、実験は各テーマ 発表会を行います ーマのレポート及ひ 実験に対する姿勢( 排が困難となるので を事前に予習し、	について班ごとに2 。プレゼンテーショ ・ 実験に対する姿勢 発表したテーマは 注意するなかった点を 分からなかった点を	週連続で行いま ョンは 1 週目にフ で評価する(レ7 表表点)10%)。	す。なお、レポート提出およびプレゼ ライド作成(準備)、2週目に発表 ポートの体裁(図・表・式の出来映え		
<sup>注意点</sup> 授業の属	属性・履何	ガイダンス シテを行い 合格点は60 をかけ、講義を に講義を受 修上の区分	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 )点である。各テー )%、考察40%、 提出者は単位取得 ける前)実験デー	、実験は各テーマ 発表会を行います ーマのレポート及ひ 実験に対する姿勢( 排が困難となるので を事前に予習し、	について班ごとに2。プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは発 注意すること。 分からなかった点を ること。	週連続で行いまョンは1週目にス で評価する(レ7 も表点)10%)。	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表 、プログログログログログログログログログログログでは、 では、アンドログログログログログログログログログログログログでは、 では、アンドログログログログログログログログログでは、 では、アンドログログログログログログログログログログログログログログログログログログログ		
<sup>注意点</sup> 授業の属		ガイダンス シテを行い 合格点は60 をかけ、講義を に講義を受 修上の区分	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 )点である。各テー )%,考察40%, 提出者は単位取内容 ける前)実験内容	、実験は各テーマ 発表会を行います ーマのレポート及ひ 実験に対する姿勢( 排が困難となるので を事前に予習し、	について班ごとに2 。プレゼンテーショ ・ 実験に対する姿勢 発表したテーマは 注意するなかった点を 分からなかった点を	週連続で行いまョンは1週目にス で評価する(レ7 も表点)10%)。	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表 、プログログログログログログログログログログログでは、 では、アンドログログログログログログログログログログログログでは、 では、アンドログログログログログログログログログでは、 では、アンドログログログログログログログログログログログログログログログログログログログ		
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履( ティブラー:	ガイダンス シテを行い 合格点は60 をかけ、講義を に講義を受 修上の区分	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 )点である。各テー )%、考察40%、 提出者は単位取得 ける前)実験デー	、実験は各テーマ 発表会を行います ーマのレポート及ひ 実験に対する姿勢( 排が困難となるので を事前に予習し、	について班ごとに2。プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは発 注意すること。 分からなかった点を ること。	週連続で行いまョンは1週目にス で評価する(レ7 も表点)10%)。	す。なお、レポート提出およびプレゼ ライド作成(準備)、2週目に発表 ペートの体裁(図・表・式の出来映え と。		
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履( ティブラー:	ガイダンス コンテーショ 会を行いは60 を含ポートをでいる。 (講義を受いる) (講義を受いる) (事を受いる) (事を受いる) (事を受いる)	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 )点である。各テー )偽、考察40%、 提出者は単位取得 ける前)実験デー はた後)実験デー	、実験は各テーマ 発表会を行います ーマのレポート及ひ 実験に対する姿勢( 排が困難となるので を事前に予習し、	について班ごとに2。プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは発 注意すること。 分からなかった点を ること。	週連続で行いまました 1 週目にえて評価する(レた 1 週目にえて評価する(レた 1 を表点)10%)。	す。なお、レポート提出およびプレゼ ライド作成(準備)、2週目に発表 ポートの体裁(図・表・式の出来映え さと。		
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履( ティブラー:	ガイダンス カイダンス 会を 格点は60 を含むした (講義を 後上の区分 ニング	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 の点である。各テー のの、考察40%の。 提出者は単位取内 はしました後)実験デー	、実験は各テーマ 発表会を行います ーマのレポート及ひ 実験に対する姿勢( 排が困難となるので を事前に予習し、	について班ごとに2。プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは7 注意すること。分からなかった点をること。	週連続で行いまっとは1週目にファインは1週目にファインは1週目にファインを表点)10%)。 ままとめておくこ	す。なお, レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備), 2週目に発表 ポートの体裁(図・表・式の出来映え と。		
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履( ティブラー:	ガンスョま イダンシー イグーシー 会格会がして (講義を を上が (講議義を を上が ) として (は1) (は1) (は2) (は3) (は4) (は4) (は5) (は5) (は6) (は7) (は7) (は7) (は7) (は7) (は7) (は7) (は7	は講義形式で行い ン技術向上のため す。 り点である。各テー り点である。各テー り分である。各テー り分である。各テー り分である。各テー り分である。各テー りが、考察40%のでは はる前)実験デー ロー ICT 利用	、実験は各テーマ 発表会を行います ーマのレポート及ひ 実験に対する姿勢( 排が困難となるので を事前に予習し、	について班ごとに2。プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは7 注意すること。分からなかった点を3こと。	週連続で行いま ョンは1週目にフ で評価する(レ7 後表点)10%)。 をまとめておくこ 週ごとの到達目相 実験実習の進め	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表 ポートの体裁(図・表・式の出来映え まと。 □ 実務経験のある教員による授業 こと評価の仕方について説明する。		
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履( 〒ィブラー <u>-</u>	ガンスョま イダンスョま 合きはは60 を含むした (講講を ) (講講を ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	は講義形式で行い ン技術向上のため す。 り点である。各テー り点である。各テー り分である。各テー り分である。各テー り分である。各テー り分である。各テー りが、考察40%のでは はる前)実験デー ロー ICT 利用	、実験は各テーマ 発表会を行います ーマのレポート及ひ 実験に対する姿勢( 排が困難となるので を事前に予習し、	について班ごとに2。プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは7 注意すること。分からなかった点を3こと。	週連続で行いま ョンは1週目にフ で評価する(レ7 後表点)10%)。 をまとめておくこ 週ごとの到達目相 実験実習の進め	す。なお, レポート提出およびプレゼ、ライド作成 (準備) , 2 週目に発表 ポートの体裁 (図・表・式の出来映え さと。 □ 実務経験のある教員による授業		
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履( 〒ィブラー <u>-</u>	ガイダンスョま ガンテを行いは60 を含ポー素を受い (講義をで) 修上の区分 ニング 週 1週 2 1週 2 (は60) 100 20 2 (は70 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	は講義形式で行い ン技術向上のため す。 り点である。各テー り%、考察40%、 場合は単位取内 けるは、実験デー ロ ICT 利用	1、実験は各テーマの発表会を行います -マのレポート及び実験に対する姿勢( が困難となるので を事前に予習し、 タを充分に考察す	について班ごとに2。プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは4 注意すること。分からなかった点をること。	週連続で行いまました。1 週連続で行いまました 1 週目に元で評価する(レアを表点)10%)。 ままとめておくる 週ごとの到達目相実験実習の進める 2. の実験の内容	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表 ポートの体裁(図・表・式の出来映え まと。 □ 実務経験のある教員による授業 こと評価の仕方について説明する。		
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履( 〒ィブラー <u>-</u>	ガイダンスョま イダンシー 会を点点は60 をかけ、 高格含が、 は講義を 修上の区 り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	は講義形式で行い ン技術向上のため す。 り点である。各テー り点である。各テー り点である。各テー り分である。各テー り分である。各テー りが、考察40%のでは はる前)実験デー ICT 利用 「業内容 イダンス (1) ガイダンス	、実験は各テーマの発表会を行います ・マのレポート及び実験に対する姿勢( が困難となるので、 ・クを充分に考察す	について班ごとに2。プレゼンテーショ 、プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは移 注意すること。 分からなかった点を ること。	週連続で行いますとは1週目にプロットランジスタ増	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表 ポートの体裁(図・表・式の出来映え と。    実務経験のある教員による授業   と評価の仕方について説明する。   Sについて説明する。   した自動計測ができる。   国路の設計法について理解できる。		
注意点 授業の原 □ アクラ	属性・履( 〒ィブラー <u>-</u>	ガンスョま イダンシい 合たがには60 をかれて (講講義の) 下で行いには50 には10 には10 には10 には10 には10 には10 には10 には1	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 り点である。各テー り点である。各テー り点である。各テー りのである。各テー りのである。各テー りのである。 考察40%、 には実験デー はは実験デー ICT 利用 (1) ガイダンス (1) ガイ動計測制御 (3) 電子回路設計 (5) プレゼンテー	、実験は各テーマの発表会を行います ・マのレポート及び実験に対する姿勢() ・おいていていていていていていていていていていていていていていていていていていて	について班ごとに2。プレゼンテーショ 、プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは移 注意すること。 分からなかった点を ること。	週連続で行いますとは1週目にプロットランジスタ増	す。なお、レポート提出およびプレゼ ライド作成(準備)、2週目に発表 ポートの体裁(図・表・式の出来映え さと。 □ 実務経験のある教員による授業 こと評価の仕方について説明する。 いで記明する。 した自動計測ができる。		
注意点 授 <b>業の</b> [ □ アクラ	属性・履作 Fィブラー <u>=</u> 画	ガンスョま イダンシい は60 を 内 に い 50 トをを	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 り点である。各テー り点である。各テー り点である。各テー りのである。各テー りのである。各テー りのである。 考察40%、 には実験デー はは実験デー ICT 利用 (1) ガイダンス (1) ガイ動計測制御 (3) 電子回路設計 (5) プレゼンテー	、実験は各テーマの発表会を行います ・マのレポート及び実験に対する姿勢() ・おいていていていていていていていていていていていていていていていていていていて	について班ごとに2。プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは 発表したテーマは 分からなかった点を ること。	週連続で行いますとは1週目に元で評価する(レアを表点)10%)。 でまとめておくこの到達目を表しましていません。 でまとめておくこの でまとめておくこの ました できる	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表 ペートの体裁(図・表・式の出来映え と。  □ 実務経験のある教員による授業 こと評価の仕方について説明する。 ぶについて説明する。 □ た自動計測ができる。 □ 回路の設計法について理解できる。 ※についてプレゼンテーションを行う  ※について説明する。		
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履作 Fィブラー <u>=</u> 画	ガンスョま イダンシい は60 を 格含が ト	は講義形式で行い ン技術の上のため す。 の点である。各テー 9%、考察40%、 提出る前)実験 はびあ後) はびある。各テー 9%、考察40%、 18である。各テー 9%、考察40%、 18である。各テー 9%、考察40%、 18である。各テー 9%、考察40%、 18である。	・、実験は各テーマの発表会を行います ・マのレポート及び実験に対する姿勢(に対する姿勢(まが困難によ予習を充分に考察するを充分に考察するを充分に考察するを充分に考察するを充分に考察するを充分に考察する。	について班ごとに2。プレゼンテーショ ・プレゼンテーショ ・ 漢験に対する姿勢 発意するとましたテーマは 発表したテーマは 発表言するかった点を ること。	週連続で行いまました 1 週車続で行いまました 1 週目に 7 で評価する (レ7 を表点) 10%)。 ままとめておくる 2 でまとめておくる 2 の実験の内容 パソコンジスタ増加 トランジスタ増加 1 の実験の内容 3 の実験の内容 3 の実験の内容 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1 の 1	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表ポートの体裁(図・表・式の出来映えたと。  「実務経験のある教員による授業である。」 「と評価の仕方について説明する。」 「と評価の設計法について理解できる。」 「国路の設計法について理解できる。」 「国路の設計法について理解できる。」 「おいてプレゼンテーションを行う」 「学について説明する。」 「おいて説明する。」 「おいて説明する。」 「おいて記明する。」 「おいて記明する。」 「おいて記明する。」 「おいて記明する。」 「おいて記明する。」 「おいて記明する。		
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履作 Fィブラー <u>=</u> 画	ガンシい は 60	は講義形式で行い ン技術向上のためす。 の点である。各テー の名祭400次の、 の名祭400次の、 には出前)は実験デー ICT 利用 ICT 利用 ICT 利用 (1) ガチシス (2) 自動計四路設計 (3) 電子 レゼンテー (1) ガイダンス	・、実験は各テーマの発表会を行います ・マのレポート及び実験に対する姿勢(に対する姿勢(を)が事前にで予習を充分に考察するを充分に考察するを充分に考察するを充分に考察するを充分に考察する。	について班ごとに2。プレゼンテーショ 、プレゼンテーショ 漢験に対する姿勢 発表したテーマは7 注意すること。 分のこと。 一 遠隔授業対応	週連続で行いますとは1週目に元で評価する(レスを表点)10%)。 をまとめておくる 過ごとの到達目相実験実習の進めた。 実験実習の進めた。 2.の実験の内容の実験の内容のできる。 myRIOとLabVIでき像認識を利用にいます。 回性的なとの実験の内容のできる。 深層強化学習にある。	す。なお、レポート提出およびプレゼ・ライド作成(準備)、2週目に発表ポートの体裁(図・表・式の出来映えまと。  □ 実務経験のある教員による授業  こと評価の仕方について説明する。 こと言動計測ができる。 このおいてプレゼンテーションを行う いて説明する。 このいて説明する。 このいて説明する。 このおいてプレゼンテーションを行う いて説明する。 このおいてが見ばいません。 このいて説明する。 このおいてが見ばいません。 このいて説明する。 このいて説明する。 このおいてが理解できる。 このいて説明する。 このいて記述が理解できる。 このいて記述が理解できる。		
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履作 Fィブラー <u>=</u> 画	ガンシー ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	は講義形式で行い ン技術的上のためす。 の点である。各テー のの、考察400次の、 得は出前)は上る後) ICT 利用 ICT 利用 (1) ガリ自動子回 ゼンテー (3) 電子 ブレゼンテー (1) ガイダンス (1) カー (1) 自動子回 ゼンテー (1) ガイダンス (2) 画像認識実	ト、実験は各テーマ ・ 実験は各テーマ ・ 学表会を行います ・ マのレポート及び 実験に対する姿勢( ・ 診を育力に予習察す ・ タを充分に考察す ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	について班ごとに2。プレゼンテーショ 、プレゼンテーショ 漢験に対する姿勢 発表したテーマは7 注意すること。 分のこと。 一 遠隔授業対応	週連続で行いますとは1週目に元で評価する(レスを表点)10%)。 をまとめておくる 過ごとの到達目相実験実習の進めた。 実験実習の進めた。 2.の実験の内容の実験の内容のできる。 myRIOとLabVIでき像認識を利用にいます。 回性的なとの実験の内容のできる。 深層強化学習にある。	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表ポートの体裁(図・表・式の出来映えまと。  □ 実務経験のある教員による授業  こと評価の仕方について説明する。 こと評価の仕方について説明する。 こと自動計測ができる。 国回路の設計法について理解できる。 ことについてプレゼンテーションを行う  ことについて説明する。 ことについて説明する。 ことについて説明する。 ことを利用した画像認識の基礎が理解したロボットの制御ができる。 を利用した教師あり学習の基礎が理解		
<sup>注意点</sup> 授業の原	属性・履作 ディブラー <u>:</u> 画	プスョま	は講義形式で行い ン技術的上のためす。 の点で表案440体の の点で表察440体の内 にで表察440体の内 は実実験デー ICT 利用 ICT J D D D D D D D D D D D D D D D D D D	ト、実験は各テーマ ・ 実験は各テーマ ・ 学表会を行います ・ マのレポート及び 実験に対する姿勢( ・ 診を育力に予習察す ・ タを充分に考察す ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	について班ごとに2。プレゼンテーショ 実験に対する姿勢 発表したテーマは 発表 したテーマ は 分	週連続で行いますとは1週目にファットを表点)10%)。 で評価する(レアを表点)10%)。 でまとめておくる でまとめておくる でまとめておくる でまとめ である かられる できる でで で で で で で で で で で で で で で で で で	す。なお、レポート提出およびプレゼ・ライド作成(準備)、2週目に発表ポートの体裁(図・表・式の出来映えまと。  □ 実務経験のある教員による授業  こと評価の仕方について説明する。 こと自動計測ができる。 この路の設計法について理解できる。 この路の設計法について理解できる。 このいて説明する。 このいてが明する。 この路の設計法について理解できる。 この路の設計法について理解できる。 この路の設計法について理解できる。 このよりではいてが、またの制御ができる。 このよりではいてが、またの制御ができる。 このよりではいてが、またの制御ができる。 このよりではいてが、またの制御ができる。 このよりではいてはいてはいていて説明する。 このよりではいてはいてはいていて説明する。 このよりできる。 このよりではいてはいていました。 このよりではいてはいていました。 このよりできる。 このよりではいています。 このよりではいます。このよりではいます。このよりではいます。 このようにはいます。このます。このます。このます。このます。このまたます。このます。このまたます。このます。このます。このまたます。このます。このます。このます。このます。このます。このます。このます。この		
注意点 授業の原 □ アクラ 授業計画	属性・履作 Fィブラー <u>=</u> 画	プスョま	は講義形式で行い ン技術の上のためす。 の点である。各テー のの、考名400年 のの、考名400年 は出前)は は出前)は は出前)な にて 利用 (1) ガイダンス (1) ガ 自動子回 ゼンテー (1) ガイダンス (2) 画像認識実 (3) AI実習 (5) プレゼンテー	ト、実験は各テーマ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	について班ごとに2。プレゼンテーショ 、プレゼンテーショ 深験に対する姿勢 発表したテーマは7 注意すること。 分からなかった点を 一 遠隔授業対応	週連続で行いますとは1週目に元で評価する(レスを表点)10%)。 をまとめておくる の主まとめておくる の主まとめておくる の主まとめておくる の主まとめておくる の主まとめておくる の主まとめておくる の実験の内容	す。なお、レポート提出およびプレゼ、ライド作成(準備)、2週目に発表ポートの体裁(図・表・式の出来映えまと。  「実務経験のある教員による授業できる。」 「実務経験のある教員による授業である。」 「実務経験のある教員による授業である。」 「会話では、できる。」 「会話では、いますないますないますないますないますないますないますないますないますないますな		

13週	(5) プレゼンテーション	4. の実験の内容についてプレゼンテーションを行う。
14週	5 まとめ	最後に実験実習のまとめと授業アンケートを行う。
15週		
16週		

|-----|1000 | |モデルコアカリキュラムの学習内容と到達日標

モデルコフ	Eデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
				日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,前8,前 9,前10,前 11,前12,前 13,前14,前 15,前16		
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で 正しい文章を記述できる。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
		技能 汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
分野横断的能力	汎用的技能			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
					他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に 収集することができる。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要が あることを知っている。	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		

汎用的技能 総合的な学習終 験と創造的思 力	5 経 考 10		10	5	0	0	0		20
<del>ェ/バ</del> 思考・推論・ 造への適用力	〕 5		15	0	0	0	0		20
知識の基本的理解			15	5	0	0	0		50
総合評価割合	<u>レポート</u> 50	トの体裁	レポートの考察 40	取組姿勢 10	態度 0	ポートフォリオ 0	その他 0		<u>合計</u> 100
平価割合	، قبر ر	σ.4±°	1 + 1 0 + 5	Πη <b>/</b> Γ \/ 7 ★ 1	台口	4 1	70"	1	<b>△=1</b>
				結論への過程の る。	論理性を言葉、文章	章、図表などを用いる	て表現でき	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前
		事実をもとに論理や考察を展開できる。				3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前 15		
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。  どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。  適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。				3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前
								3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,i 13,前14,i
								3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12, 13,前14,i 15
			課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。				3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12, 13,前14,	
			特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析の ために効果的な図や表を用いることができる。				3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前	
				複数の情報を整理・構造化できる。				3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前
				あるべき姿と現 きる	状との差異(課題)を	r認識するための情幸	<b>足収集がで</b>	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前
				目的や対象者に 信(プレゼンテ-	応じて適切なツー/ -ション)できる。	レや手法を用いて正し	<b>」く情報発</b>	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前
				情報発信にあた あることを知っ	っては、個人情報な ている。	および著作権への配属	<b>憲が必要で</b>	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前
				情報発信にあた 自己責任が発生	っては、発信するP することを知ってU	内容及びその影響範囲 いる。	囲について	3	前3,前4,前 5,前6,前 8,前9,前 10,前12,前 13,前14,前